



TITLE:

學會

AUTHOR(S):

---

CITATION:

學會. 日本外科宝函 1932, 9(2): 363-372

ISSUE DATE:

1932-03-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/201750>

RIGHT:

# 學 會

## 第 33 回 近 畿 外 科 學 會 (下)

### 25. Hacker 氏胃腸吻合術ニ對スル批判

京 帝 大 藤 浪 修 一

演者ハ經驗例ヨリ、下記ノ如キ Hacker 氏吻合術ニ對スル疑問ヲ發セリ。

1) Hacker 氏吻合術ハ生理的ニ近シトセラル、モ、本法ニテハ、十二指腸液ハ必ズ胃内ヘ進入セザルベカラズ。之ヲ生理的ト言ヒ得ルヤ。

胃痛、胃下垂症等、胃ノ緊張力ノ弱キ、又胃液酸度ノ低キモノニ對シ、殊更ニ胃ノ緊張力ヲ減退セシムル後腹部手術侵襲ヲ加ヘ、益々十二指腸液ノ胃内潑溜ヲ來サシムル術式ガ合理的ナリヤ。

2) 胃ノ内容速カニ腸ヘ移行セバ胃液酸度低下スルノ事實ヲ經驗セリ。又消化性空腸潰瘍ノ發生ハ近時ノ統計ヲ見ルニ、結腸前胃前壁吻合術、Hacker 氏吻合術兩者ニ於テ、其頻度略々同ジ。此事實ヨリ計畫的ニ十二指腸液ノ胃内進入セシムル Hacker 氏吻合術ガ胃液酸度ノ高キモノニ對シ絶對的ノモノナリヤ。

3) 吸収輕少ナル空腸上部ノ僅少ナル長短ヲ以テ、Hacker 氏吻合術ハ結腸前胃前壁吻合術ヨリモ勝ルトナシ得ルヤ。

4) Hacker 氏吻合術ハ胃空腸ノ正常解剖的位置ニ於テ吻合セラルト稱サル。サレド此術式ニ於テ空腸、腸間膜ハ横行結腸腸間膜ヲ貫通シ、且吻合部ハ、Treitz 氏靱帶ニヨリ固定サル。

故ニ、胃ニ内容充滿シタルトキハ、胃大彎ハ吻合部ヲ長軸トシテ右方ニ廻轉シ且又吻合部ニハ強キ索引加ハル。斯カルコトヲ以テ、合理的トナシ得ルヤ。

5) Circulus vitiosus ハ Hacker 氏吻合術ニ於テ無キニ非ズ。尙又、Hacker 氏吻合術後ノ再手術ノ困難ハ諸家ノ知ルトコロナリ。

以上ノ諸點ヨリ、Hacker 氏吻合術ヲ強イテ行フ必要性無キガ如ク思考サル。會員諸家ノ教示ヲ求ムル次第ナリ。

### 追加

大 阪 大 野 良 藏

吾々ハハツカー氏胃腸吻合ヨリモウエルフレル氏前壁胃腸吻合ヲ撰擇シツ、アリ。然シ(1)一般狀態ガ惡クシテ手術ノ時間ヲ急グ場合、(2)前壁吻合ヲヤルニ小腸大腸ノ解剖學的條件ガ惡イ場合ニハハツカー氏法ヲ撰ビツ、アリ。尙吾々ハ手術後ノ腸潰瘍ヲ避クル目的デ「ハツカー氏法+ブラウン氏法」ヲ10例ノ患者ニ行ツテ見タガ却ツテ「ウエルフレル氏法

＋ブラウン氏法」が手術其モノガ輕ク軟ニ行ク様デ前者ヲ撰ブコトノ可ニ疑義ヲ有ス。

追加

神戸 鈴木 正 次

余ハ從來主トシテハツケル氏法ヲ行ヒツ、アリシガ往々術後嘔吐其他不快症アルコトヲ經驗シ 8年前ヨリ斷然此法ヲ行ハザルニ決シ爾來結腸前胃空腸吻合（ブラウン氏吻合併用）ヲ原則的ニ實施シ良果ヲ納メツ、アリ、即チ一般的ニ後者ヲ優秀ナル法ト認ムルモノナリ。

追加

大阪帝大 岩 永 仁 雄

胃腸吻合術ノ際フォン・ハツカー氏法ヲ選ブベキカ、ウエルフル、ブラウン氏法ニ據ルベキカノ問題ハ各症例ニヨツテ決定スベキモノト考ヘル。ハツカー氏法モ時間ヲ短縮シ得ル利點ガアルタメ必ズシモ排斥スベキ方法デハナイ。

追加

京帝大 磯部 喜右衛門

ハツケル氏胃腸吻合術後ニモ時トシテ「チルクルス・ビチオズ」ヲ起スコトガアツテ、其際ニハ更ニブラウン氏腸吻合術ヲ行ハネバナラスガ、手術ハ甚ダ困難デ大ニ困ルモノデアルカラ、吾々ハ患者ノ一般狀態其他デ手術時間ヲ短クシタイ時ノ外ハ可成のデブラウン氏腸吻合ヲ附加スルコトニシテ居ル。尙消化性空腸潰瘍ノ發生ガ減少スルナドノ事ニ關シテハ其差ガ餘リ著明デナイノデ、胃若クハ十二指腸潰瘍ニ對シテ胃腸吻合術ヲ行フ際ニモ、特別ノ場合ヲ除クノ外ハ後日厄介ノ起ラヌ様ニ、ナルベクブラウン氏腸吻合ヲモ同時ニ行フコトニシテ居ル。

追加

京帝大 鳥 潟 隆 三

私ハズツト以前カラ此ノハツケル氏胃腸吻合術ニ疑問ヲ持ツテ居リマシタ。獨逸ニ參リ時々其ノ跡始末ノ手術ヲシテ居ル手術者ガ「コレダカラハツケル手術ハ考ヘモノデアル」ト言フ嘆聲ヲ時々聞キマシタ。跡始末ト申スノハ矢張り消化性潰瘍ガ出來テ狹窄ヲ起シタ場合及ビ胃大腸瘻ガ出來タ場合デアリマシタ、ソレデハツケル氏手術ハ是非行ハネバナラス程ノモノデハナイト考ヘル様ニナリマシタ。本日ハ此點ニ就テ坐談的ニ諸家ノ御意見ヲ承リタイト存ジマス

ザウエルブルツフガ此席ニ居ツタナラバハツケル氏手術後「チルクルス」ヲ起シタナラバソレハ手術方法ガ當ヲ得ズトライツニ十分近い所デ吻合セヌカラデアルト申スカモ知レマセン、併シソレデモ（定型的ニ行ツテモ）「チルクルス」ヲ起スコトモアルノデアリマシテ此時ニハ跡始末ニ困難スルノデアリマス。

ハツケルヨリモムシロ十二指腸上部ヲ移動性トシテ胃腸吻合ヲ行フコト（故伊藤準三教授ノコツヘル氏Ⅱ手術）ヲ試ミタ方ガヨイカト考ヘマス。

## 26. 孤立性腸間膜淋巴腺結核ノ一例

京帝大 福 間 三 徳

演者ハ、8歳ノ女兒ニ於テ、普通腸間膜淋巴腺結核ノ好發部位タル廻盲部ヲ避ケ、其レ

ヨリモ約 1 米口腔へ接近セル廻腸ノ腸間膜ニ孤立性ニ發生セル約林檎大ノ腸間膜淋巴腺結核ヲ有スル患者ヲ經驗シ、其ノ局所及ビ手術所見ヲ述ベ標本供覽、及ビ、其ノ發生經路ニ付キ考察ヲ加ヘ、尙小兒淋巴腺結核特ニ腸管ニ關シテハ菌型トシテハ牛型ノ多イ事ヲ附言ス。

## 27. 高位直腸癌ニ因シタル腸重疊ノ一例

京帝大 藤 浪 修 一

直腸高位ニ發生シタル癌腫が因トナリ、S 字狀結腸下部、上部直腸が下部直腸内ニ嵌入重疊セシ例ヲ報告シ、而シテ嵌入部先端ヲ構成スル癌腫ノ一部壞死ニ陥リタルヲ以テ、直腸癌ノ自然治癒機轉ヲ認ム。尙摘出標本ニヨリ、直腸癌ニ對スル Invaginationsverfahren ノ危險ニシテ不可ナルヲ述ブ。

## 28. 催膽劑トシテノ動物性植物性食餌越幾斯(第一報)

大阪帝大 勝 部 育 郎

堀 江 定 胤

余等題記ノ研究ニ當リ犬ノ急性實驗ニ於テ總輸膽管並ビニ大膽管ニ挿入セル硝子「カヌーレ」ヨリノ流出滴數ヲ比較測定シ動物性及ビ植物性食餌「エキス」ノ皮下並ビニ靜脈内注入一ヨル膽汁及ビ睪液分泌ニ及ボス影響ヲ觀察セリ。實驗1 動物性蛋白質消化分解產物並ニ肉「エキス」ノ膽汁分泌促進作用ニ就テハ コンハイム Cohnheim, クレー Klee, ロスト Rost, ロンドン London, クルウベル Klupfel, ブルーノ Bruno, 岡田, 岩永氏等ノ實驗證明セル所ナリ、余等ハ動物性食餌代表物タル牛肉ノ鹽酸及ビ蒸餾水抽出「エキス」ニテ追試々驗ヲ致セリ、其ノ結果該「エキス」ハ共ニ先進諸家ノ唱導セル如ク可成著明ニ膽汁分泌促進的作用ヲ認メ而テ睪液分泌ニ對シテハ顯著ナラザルモ稍々促進的ニ作用スルヲ認メタリ。實驗2 俗間ニ於テ蜆汁が黃膽ニ有効ナリトシテ飲用セラル、ハ衆知ノコトナリ。本草學ノ書籍ニモ蜆貝ノミナラズ蛤、田螺蜷等ハ胆石症黃膽ニ有効ナル如ク記載セラル、ヲ見受ケルナリ、余等ハ是等貝類ノ膽汁分泌ニ對スル影響ヲ究メント欲シ蜆、蛤、蜷ノ鹽酸及ビ蒸餾水「エキス」ニ就キ前同様犬ニテ實驗セリ。其ノ結果蜆、蛤、蜷ノ鹽酸抽出「エキス」ニ於テ著明ナル膽汁分泌促進作用ヲ認メ蒸餾水「エキス」ニテハ前者ニ比シ稍々劣ルノ感アルモ尙且ツ胆汁分泌ヲ促進ス。睪液分泌ニ對シテハ鹽酸「エキス」ニ於テ稍々促進的ニ作用スルヲ認メタリ。實驗3 植物性蛋白質ノ膽汁分泌ニ對スル影響ニ就テハ、コンハイム Cohnheim, クレー Klee, クルウベル Klupfel 等ハ「アロイロナート」Aleuronat ニ分泌促進作用アリト唱導セリ。余等ハ日常吾人ノ食膳ニ上ル豆腐ノ原料タル白大豆及ビ小豆トニ就キ鹽酸及ビ蒸餾水「エキス」ヲ作り前同様實驗セリ、其ノ結果大豆ニ於テ顯著ナル膽汁分泌促進作用ヲ認ムルモ小豆ニ於テハ著明ナラズ、睪液分泌ニ對シテハ大豆、小豆、何レノ「エキス」ニ於テモ稍々分泌促進的ニ作用スルモノ、如シ。實驗4余等ハ新鮮ナル果實中ニ

モビッケル A. Bickel 等所謂植物性「セクレテン」様物質ノ存在ヲ信ジ柑橘類、梨、林檎、桃ノ各々ニ就キ前述同様鹽酸蒸餾水兩抽出「エキス」ヲ作り實驗セル結果柑橘類ニ於テハ著明ナル胆汁分泌促進ヲ惹起スレドモ桃、林檎ニ於テハ前者ニ劣ルモノ、如シ。脾液分泌作用ニ對シテハ本實驗ヲ通ジ40餘例中殆ンド其ノ影響ノ認ムベキモノナシ。實驗5 余等ハ是等動物性及ビ植物性食餌ノ有機酸抽出「エキス」ノ胆汁、脾液兩分泌ニ對スル影響ヲ知ラント欲シ牛肉、蜆、大豆、「レモン」ノ乳酸抽出「エキス」ヲ作り同様實驗セル結果鹽酸「エキス」同様胆汁分泌促進作用ヲ認ムルモ其ノ作用タルヤ前者ヨリモ稍々劣ルモノ、如シ。

### 29. 蛔虫迷入ニヨル急性肺炎ノ一例

神 戸 渡 邊 傳 二

患者ハ40歳ノ極メテ健康ナル男子ニシテ突然上腹部ニ疼痛ヲ訴ヘ、ソノ後腹痛、惡心、嘔吐等全ク定型の急性脾臓炎ノ症候ヲ現ス。手術ニヨリテ脾臓壞死、並ニ急性化膿性腹膜炎ナルコトヲ確メ得、更ニ死後剖檢ニヨリテ脾管内ニ小ナル蛔虫ノ迷入シラレルヲ見タリ。

蛔虫ノ虫體、又ハ蛔虫卵ハ脾管内ニ迷入シテ急性肺炎ヲ惹起セル例ハ比較的少ク、卵ノ迷入ヲ報告セルハ吾國ニテハ泉教授、石川教授、室谷氏等アリ。虫體ノ迷入ニ就キテハ Marchand 氏等ノ報告アリ。吾國ニテハ泉山氏、菅原氏等アリ。此ノ兩氏ハ何レモ患者ノ死後剖檢ニヨリテ始メテ迷入ヲ知レリ。蛔虫ノ迷入ハ患者ノ死後偶然起リシモノナリトナス人アルモ大多數ノ人々ハ迷入ニヨリテ肺炎ヲ誘發セルモノトナス。余ノ例モ迷入ニヨリテ急性肺炎ヲ起セルモノナルベシ。

### 追加

大 阪 大 野 良 藏

蛔虫迷入ニヨル急性肺炎ノ成因ニツキ追加。

蛔虫迷入ニヨリ細菌感染、脾液鬱滯モ亦其成因タルニ間違ナケレドモ更ニ脾液ガ蛔虫ニ附着セル膽汁腸活素ニヨリ急劇ナル消化力増進ヲ來シ其爲メ急性炎症ヲ起セルモノナリト認ムルヲ妥當トス。

余ハ脾液ガ膽汁並ニ腸活素ニヨリ千數百倍ノ消化力増進ヲ來ス事實ヲ實驗研究シ得タルコトアリ。

### 30. 食餌性腸管閉塞症ニ就テ

大 阪 宮 崎 松 記

(原稿未着)

### 31. 腹部大動脈瘤ノ一例

大 阪 富 永 貢

患者ハ38才ノ男。酒客デ日ニ1—2升モ飲ンデキタ。

主訴ハ、食事攝取ト、排便トニ關係無ク、胃部ニ起ル激痛デアル。

ワ氏反應ハ陰性。「レ」線檢査デハ胃自身ニ機能的變化無クシテ小瀧狀胃 Kaskalenmagen [Rieder] ノ像ガ現ハレ、而シテ結腸ハ著シク膨滿シ、鏡面形成現ハレ、横行結腸末端ニ通過障害アリ。腹部觸診デ臍ノ左上方カラ肋骨弓ニ延ビタル壓痛アル腫瘤ニ觸レル。季肋部

ニ所謂季肋部搏動ト思ハレルモノヲ證明スルノミデ、腫瘤自身ニハ特別ナ搏動ヲ氣附キ得ナカッタ。鼓手狀指、浮腫等無ク、動脈瘤ヲ疑ハシメル症狀ハ何處ニモ無カッタ。

「レ」線觸診デ横行結腸末端ノ通過障害ノアル部ニ、此腫瘤ガアリ、從ツテ横行結腸末端ニ位置スル腫瘍カトモ考ヘラレタ。

試験の開腹術ヲ施ス事ニ依リ、特發眞性限局性動脈性動脈瘤ナル事が分ツタ。

結論トシテ、動脈瘤ガ腹部大動脈ノ上方ニ位置シテ、其前カラ胃ガ膨滿シタ結腸デ掩ハレテキル場合ニハ、其主徴候ノ一ツナル搏動ガ不著明トナリ、又其動脈瘤ニヨル搏動ヲ季肋部ニ觸レル事がアツテモ、日常吾々が診察ノ時ニ殊ニ瘦セタ人々ニ屢々經驗スル所謂季肋搏動ト區別スル事が出来ナイ程度ノモノモ有リウルト云フ事デアツテ、コレハ大イニ注意スベキ事柄デアルト氣附イタ。

尙又所謂小瀧狀胃モスカル場合ニモ現レウル事ヲ知り得タノデ、興味アル一例トシテコニ報告スル次第デアル。

#### 追加

中 野 秀 孝

昭和6年9月京都府立醫科大學外科ニ於テ、43歳ノ男、胃腸障碍及ビ左側下肢ノ疼痛ヲ訴ヘワツセルマン氏反應陰性ニシテ、腹部中央部脊柱ノ稍々左側ニ偏シ約手拳大ノ腫瘤ヲ有シ診斷困難ナリシ患者ニ對シ試験の開腹術ヲ行ヒ腹部大動脈瘤ナルコトヲ確診シ得タル一例ヲ追加ス。

#### 追加

大阪帝大 岩 永 仁 雄

余ハ肺臓癌ニ無名大動脈瘤ヲ合併セル患者ニレントゲン検査ト「トロムメルシュラッグ」指ニヨツテ動脈瘤ヲ疑ヒナガラ、動脈瘤特有ノ渦卷雜音、異狀搏動等ヲ臨床的ニ證明スル事ノ出来ナカッタ經驗ヲ有シ、演者ノ例ト胸腹ノ差コソアレ同様ニ定型的ノ動脈瘤ノ症狀ヲ缺如スル例ノアル事ヲ想起シ診斷上注意ヲ要スル事ヲ追加シタイ。

#### 追加

京 帝 大 鳥 潟 隆 三

只今ノ患者ニハ打鼓指(趾) (Trommelschlägerfinger) ガアリマセンデシタカ

動脈瘤ガ慢性ニ出来タ時ニハ注意シテ検査スルト末梢ノ趾(指)端ガ膨隆シテ居ル場合ガ多ク、特ニソレガ一側性ニ現レテ居ル時ニハ大分診斷ノ役ニ立ツ様デアリマス。尤モ小環循系ニ異狀ノアル患者デハ指及ビ趾ニ平等ニ打鼓狀腫大ノ起ルノハ周知ノコトデアリマスカラ之ハ鑑別セネバナリマセン。

#### 32. 巨大ナル腹部膠様腫瘍

京 帝 大 林 勝 長

患者、56歳ノ男子、綿糸業。

約8年前心窩部ニ無痛性ノ小腫瘍ヲ觸レシガ、約1年後次第ニ腹部膨滿シ、且左右腹側部ニ同様腫瘍ヲ來ス。本年2月ヨリ著シク腹部膨隆ノ度ヲ増シ、食慾不振、呼吸困難ヲ來ス。

局所所見、腹部著シク膨隆シ、ソノ形前面及ビ側面ヨリ見ルモ殆ド球形ヲ呈ジ、臍位ニテソノ周圍1.20米ニ達ス。心窩部ヨリ左右肋骨弓ニ擴ル腫瘍アリ、且ツ、臍部及ビ左右腹側部ニ手掌大ノ腫瘍アリ。表面平滑、彈性硬、唯劍狀突起直下ニ於テノミ彈性軟ナリ。

試験的開腹術ヲ行ヒタルニ、腹腔ハ赤褐色寒天様物質ヲ以テ滿サル囊腫數多アリ、ソノ壁ハ前面ハ腹膜ト後面ハ腹部臓器ト固ク癒著シ、腹部臓器ノ狀態不詳ニシテ、囊腫内容15.000cc.ヲ出シテ手術ヲ了ル。

術後30日ニシテ全身衰弱ノタメ死亡、剖檢ニ附ス。

剖檢所見、腹腔内ニ大小種々ノ囊腫累々トシテ相重リ、脾臓最モ侵サレソノ頭部、體部ヲ明ニセズ、次デ脾、肝モ囊腫ノ侵害ヲ蒙ル。

以上ノ腫瘍ノ原發部位不詳ナルモ脾臓頭部又ハ體部或ハコノ附近ノ後腹膜部位ヲ考ヘラル。組織標本ヲ見ルニ膠様癌ナリ。

### 33. 肝臓ニ原發セル紡錘形細胞肉腫

宮 司 克 巳

右季肋部ノ無痛性腫瘍ヲ主訴トシタ24歳ノ男子。

開腹術施行後組織切片鏡檢ノ結果肝臓ニ原發セル紡錘形細胞肉腫ナル事が明カニナツタ一般ニ肝臓ノ惡性腫瘍性變化ハ相當強度ニ現レテオツテモ全身障害ヲ來サヌ場合が多いノデアルガ本例モ其例デ唯一ノ變化ハ血液像ニ於テ「エオデン」嗜好細胞増加ヲ認メタ事デアル。

### 34. 血球凝集反應ノ臨床的意義ニ就テ

京 府 大 三 木 久 雄

(原稿未着)

### 35. 攝護腺腫瘍ト誤ラレタル腸腫瘍ノ一例

京 帝 大 小 津 茂

臨床的所見ニヨツテ攝護腺惡性腫瘍ト診斷セシモノガ、手術及ビ術後ノ經過ニヨリ腸壁ノ癌腫ノタメ腸内容鬱積シ、ソレニヨル慢性炎症性變化ガ小骨盤腔及ビ膀胱ニ及ビシモノナルヲ知レル一例ヲ報告ス。

### 36. 兩側ノ潜伏辜丸ニ發セル肉腫ノ一例

大 阪 林 義 之

(原稿未着)

### 37. 性ノ決定ヲ誤ラレタルニ症例

大 阪 萩 野 金 八

(原稿未着)

追加

彦 根 西 島 藤 治 郎

私モ最近兩側鼠蹊部脱腸ヲ伴ヘル男性假性半陰陽ヲ經驗シマシタノデ追加致シマス。

患者ノ17歳ノ女デ兩側鼠蹊部脱腸ガアリ。手術致シマシタ際「ヘルーヤ」囊内ニ兩側共辜丸ヲ發見致シマシタ。兩側共發育不完全ナ副辜丸ガ隨伴シ、尙左側ダケハ輸精管モ之ヲ證明スルコトガ出來マシタ、外陰部ハ完全ナ女性デアリマスガ、唯全體ガ小形ニ出來テ

キマス、内診シマスト特異ナ變化ガアリマス、即チ膺ハ存在シマスガ深サ約7糎ニテ盲端ニ終リ、子宮ハ全ク缺除シテキマス。左側膺壁ニハ一本ノ紐ガ附着シテ、膺入口部ヨリ盲端部迄走ツテ居マス。之ハ左側ニノミアルコト、輸精管ハ左側ニノミ發育シテキル事カラ考ヘ合セテ、コノ紐狀物ハ輸精管ノ終端部即チウオルフ氏管ノ遺殘物デハナカラウカト考ヘテキマス、尙コノ例ニ於キマシテハ、子宮カラ上部ハ男性生殖器ガ發育シ、子宮カラ下部ハ女性生殖器ガ發育シ、丁度子宮ノ高サガ兩性ノ境界點ニナツテキル様デアリマス。睪丸ハ大體ノ正常ノ發育ヲ遂ゲテ下降シテ參リマシタガ、外陰部發育異狀ノ爲陰囊トナルベキ部が大陰唇トナリ、尙睪丸附屬器ニモ不完全ナ發育が行ハレタノデアリマセウ、カクテ脱腸ガ生ジマシタ、即チコノ場合ノ脱腸ハ偶然半陰陽ニ合併シタモノデハナクシテ半陰陽ノ徵候ノ一部分ヲナスモノト解釋スベキモノデアリマス。

追加

大 阪 藤 森 舜 吉

19歳ニモナツテ居レバ「マスタベーション」ヲ行ハシメ其分泌物ヲ檢スレバ最簡單ナラム。

### 38. 膀胱破裂ニ重複子宮及ビ先天性盲腸瘻ヲ伴ヘル稀有ナル畸形ノ一例

神 戸 熊 野 政 明

恥骨離開、複壁及ビ膀胱破裂、重複子宮及ビ膺、先天性小結腸、鎖肛等ノ諸畸形ノ外ニ膀胱後壁ニ盲腸瘻ヲ有シ之ヲ通ジテ大、小腸、虫様突起ノ外臍脱出ヲ起シ珍奇ナル形狀ヲ呈セル初生兒ノ寫眞ヲ供覽シ、之ガ成立機轉ヲ考察シ、文献上内外ニ於テ未ダ見ザルモノナリトセリ。

### 39. 20年前ニ左足趾ヨリ潛入セル縫針ノ興味アル摘出例

和 歌 山 松 岡 元 治 郎

(原稿未着)

### 40. 先天性手指畸形ノ二例

京 府 大 來 須 正 男

並 川 力

(原稿未着)

追加

京 帝 大 勝 木 直 次

4ヶ月ノ男子ニシテ右足巨大症ニシテ、整形手術ヲナセルモ術後1ヶ年半ニシテ同部ノ皮下脂肪組織肥大シ來リ再ビ切除シタリ、ソノ際ハ右下腿及大腿ハ左下腿及大腿ニ比シヤ、太キヲ氣付キ大腿中央ニテ約2糎肥大セリ、今日4ヶ年後ニシテナホ漸次大腿モ又肥大シ來ル例ヲ觀察シ居レリ。

### 41. 肉腫剔出後ノ廣汎ナル骨移植ノ實驗例

大 阪 長 井 忠

骨移植ハ遠ク19世紀初葉、メルレーム Merrem 氏ノ頃ヨリ、實驗的ニモ臨床的ニモ屢々



行ハレタルモ、移植骨ノ運命ニ關スル論争ハ、今日尙ホ多少聞ク所アリ。

然ルニ、九大整形外科教室ニ於ケル住田教授ノ多數ノ實驗例、殊ニソノ間ニ同教室ニ於テ行ハレタル東條博士ノ動物實驗、更ニ藤木博士ガ前膊肉腫患者ニ於テ、移植後2年1ヶ月肉腫再發ノタメ切斷セルモノニ於ケル組織學的檢索ニヨリ、移植骨ノ生存ハ今ヤ確實ナルモノト信ジテ疑ハズ。

骨移植ノ多數ノ實驗例中特ニソノ廣汎ナル移植例ニ就テハ、住田教授ハ既ニ大正3年10月福岡醫科大學雜誌ニ於テ「興味アル骨移植ノ實驗」ナル題下ニ、上膊肉腫患者ニ於テ其ノ剔出後ニナサレタル一例ヲ報告サレテ以來今日迄其ノ症例ハ十數例ヲ算ス。

最近ニ於ケルモノハ、昭和2年4月、「廣汎ナル骨移植ノ一實驗例、其X線像及ビ術後患者ノ供覽」ノ題下ニ、本會和歌山例會ニ於テ講演セラレタルモノナリ。

ソノ間尙ホ報告セラレザル同様ノ2例ヲ有スルモ、一ツハ先ノ九大火災ノ節其ノ標本及ビ病歷ヲ燒失シ、他ハ術後3ヶ月ノ頃肉腫再發ノタメ目的ヲ達セザリシモノナリ。

本日茲ニ報告セムトスル症例ハ、ソノ後ノ2例ニシテ何レモ從來ノ實驗成績ニヨル我々ノ確信ヲ助長スルモノナリ。

#### 第1例 松田某 6歳 右側脛骨肉腫。

昭和5年7月始メ、患者ハ偶然ニ右側脛骨下端部ニ輕度ノ腫脹ヲ認メ、同月末來院ス。當時ノ臨床所見、X線像及ビ試験切開ノ結果、確實ニ肉腫ナルコトヲ決定シ、8月4日本手術ヲ施行ス。剔出腫瘍ハ長サ9.5浬ニシテ健康側ヨリノ移植骨ハ10.0浬ナリ。移植骨ノ上下端ハ夫々三孔ノレーン氏金屬副子ヲ用ヒテ固定シ、軟部及ビ皮膚縫合ヲ以テ術ヲ終ル。

#### 第2例 笹岡某 29歳 右側上膊骨上端肉腫。

本年1月始メヨリ右側肩脾關節部ニ輕度ノ腫脹及ビ疼痛ヲ認メ、漸次運動障礙ヲ來シタルモノナリ。

6月末日入院、7月9日手術施行。

剔出セル骨肉腫ハ骨頭ヲ含ミ、12.5浬ニシテ、同長ノ反對側脛骨ヨリ採取セル骨ヲ移植ス。上端ハ「アクロミオン」尖端ト緩ニ絹絲ヲ以テ、下端ハ四孔ノレーン氏金屬副子ヲ用ヒテ骨縫合ヲ施シテ以テ固定ス。軟部縫合、皮膚縫合、ソノ他形ノ如ク最後ニ「ギプス」繃帶ヲ施シテ術ヲ終ル。

上述2例何レモ無菌的經過ヲトリ、移植骨ノ態度ハ爾後2乃至3週毎ニ撮影セルX線像ニ明カナル如ク、移植骨ノ癒着ハ確實ニシテ、又腫瘍再發ノ像ヲ認メズ。

以上ハ何レモ局限性ノ惡性腫瘍ヲ、稍々廣汎ニ亘リテ剔出シ、同一患者ヨリノ骨移植ヲ施行シ、ソノ患肢ノ切斷又ハ離斷ヲ免レシメタルモノニシテ、腫瘍ガ或ル程度迄限局性ニシテ術後再發ノ虞少キモノニ向ツテハ、本手術ハ當然行ハレザル可カラザルモノト信ズ。

只注意スベキコトハ、本手術ニ於テハ

- 1, 腫瘍ノ剔出
- 2, 移植骨ノ採取
- 3, 骨移植

ノ三段ノ手術階梯ヲ有シ、何レモ相當ニ複雑困難ニシテコレヲ可及的短時間内ニ全部施行シ了セザル可ラズ。從ツテ、

- 1, 手術ニ對スル確信
- 2, 手術ニ對スル相當ノ熟練
- 3, 完全ナル無菌的處置

ノ三ツノ條件ハ實ニ本手術ニ缺ク能ハザル要素ト信ズルモノナリ。

尙ホ本症例ノ詳細ニ就テハ、改メテ記載報告スル所アル可シ。

#### 42. 實驗的バーロー氏病骨變化ノ「レ」線像ニ就テ 大阪帝大 吉 弘 明

實驗的バーロー氏病骨變化ハ「レ」線検査ニ於テ先進諸家ノ報ズルモノト略々一致セル像ヲ得タルモ新觀察點トシテハ

- 1, 肋骨ノ不規則陰影、脛骨近端、橈骨遠端ノ不規則陰影並ニ骨縁ノ所謂二重陰影ハ他ヨリ早期ニ現ハレ又他ヨリ高度ニ進行ス。
- 2, 中期ニハ骨端部軟骨化骨線ノ短縮、挫折ハ常ニ發現ス。
- 3, 骨端部軟骨化骨線ノ不規則陰影ト骨縁ノ所謂二重陰影ナルモノトハ其本態ヲ同ジウスルモノニシテ何レモ造骨細胞ガ増殖シ肉芽組織トナリ、而シテ骨吸収ヲ營ムノ像ニ他ナラザルモノト信ズ。

#### 追加ヘノ答

大阪帝大 中 村 一 郎

一緒ニ仕事ヲシタ關係上私カラ御返答致シマスガ、

(イ) 實驗的バーロー氏病ニ於ケル骨ノ吸収ハ造骨細胞ガ増殖シテ肉芽組織トナリ之ガ骨吸収ヲ營ムモノデアリマス。

(ロ) 組織標本ニ於テ出血ハ日數多キモノニ於テハ著明ニ認メマス。

(ハ) 「レ」線像ニ於テモ出血像ハ稀ニ認メマス。

#### 追加

京 帝 大 伊 藤 弘

1, 實驗的バアッロー氏病骨變化ハ貴大學ノ片瀬教授ノ偏食性骨變化ト組織學的ニ相異ガアリマスカ。

2, 片瀬教授ノ行ツテ居ラレル偏食性骨變化ハ主トシテ「アチドーゼ」ニヨル變化ナリト御答辯ニ對シマシテ私ノ考ヘト致シマシテハ骨組織ニ迄影響ヲ及ボス如キ強キ「アチドーゼ」ナレバ人體ノ組織ニ於テ尙遙ニ敏感ナル神經細胞等ガ先ヅ侵害セラルベキ筈ナリ、

故ニ偏食性ノ骨變化ノ原因ハ恐ラク「アチドーゼ」ニ非ラズシテ他ニ其原因ヲ求メナケレバナラヌト思フノデアリマス。

#### 追加

大 阪 長 井 忠

(伊藤博士ガ片瀨教室ニ於ケル研究ノ現況ヲ問ハレタルニ對シ)

片瀨教室ニ於テハ、私が「食餌ノ實驗的バロー氏病ニ及ボス影響」ニ就テ研索シ、目下實驗ヲ終了シタルノミニテ何等マトマツタ事項ニ就テ申上兼ヌルモ實驗中撮影シタX線像又ハ諸家ノ實驗的事實ニヨレバ、血液中「アチドーゼ」ヲ惹起セシムル食餌、例之蔗糖、牛蛋白、牛脂ノ如キヲ投與スル時ハ該病ノ發生ヲ明カニ速カナラシメ又發生セル病變ハ比較的高度、即チ骨膜下出血ノ多量、骨端部骨折ノ多數等ヲ證明シ、反之、「アルカローゼ」性食餌、例之「アルカリー」及ビ「アルカリー」土類鹽、更ニ「ヴィタミン」A, B, D, 等ハ明カニ該病發生ヲ多少遲延セシメ又病變モ比較の對照群ノソレヨリモ尠キモノアルヲ認メラル。

43. 四肢異物ノ位置測定トソノ摘出法ニ就テ 京府大 角 田 英  
(原稿未着)

44. 著シキ赤血球抵抗減弱ヲ呈セル黃疸患者手術例、附溶血性黃疸ノ疑義  
京府大 河 村 謙 二  
(原稿未着)

45. 所謂血清「アルブミン」Aニ就テ 大 阪 谷 口 出  
カーンノ述ベタル如ク血清診斷學上、特ニ惡性腫瘍鑑別ニ重要ナルモノナリト稱セラル、血清蛋白中尤モ好水性ノ部分即硫酸「アンモニウム」37%以上ニ至リテ沈澱スル所謂「アルブミン」Aハ余ノ慣用シツ、アル Wu 氏法ニ倣ヒテ簡單ニ「チロゲン」値ヨリ各血清蛋白「フラクチオン」ト共ニ量的ニ之ヲ區分スルヲ得ベシ、即チ硫酸「アンモニウム」ノ所要%ニ從ヒ第一液(A, S 26瓦ニ蒸餾水ヲ加ヘテ90㍑トス)第二液(A, S 33瓦ヲ90㍑トス)及第三液(A, S 37瓦ヲ90㍑トス)ノ溶液ヲ作り各4.5㍑ニ血清0.5㍑ヲ滴加シテ40分間放置後濾過シ各1㍑ヲ取り「チロゲン」含有量ヲ定量シテ蛋白量ヲ推知シ得、而シテ各種動物ニ就イテ見ルニ人、牛及犬ニ於テハ所謂「アルブミン」Aハ證明スルモ、家兎、鶏ニ於テハ該「フラクチン」ヲ全ク缺除ス。